

会 議 要 旨

(1 / 5)

会議の名称	令和5年度第1回川越市自殺対策連絡会議
開催日時	令和5年8月3日(木) 14時00分 開会 ・ 15時40分 閉会
開催場所	川越市保健所 大会議室
議長氏名	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック教授 吉益晴夫
出席者氏名 (人数)	別紙のとおり (13名)
欠席者氏名 (人数)	別紙のとおり (3名)
事務局職員 職 氏 名	川越市保健所長 丸山浩、 副所長 若林昭彦 保健予防課長 福田英一、 副主幹 岩間亜希、 主査 藤井拓実、 主査 石黒剛、 主査 伊藤陽平
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次期川越市自殺対策計画について 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 今後のスケジュールについて (2) 各委員からの報告及び意見交換 4. 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 川越市自殺対策連絡会議要綱 ・ 委員名簿 ・ 川越市自殺対策連絡会議の傍聴に関する要領 ・ 資料1 次期川越市自殺対策計画の概要 ・ 資料2 自殺者の現状 ・ 資料3 前計画の評価と今後の課題 ・ 資料4 計画の体系 ・ 資料5 前計画の体系・次期計画の体系 ・ 資料6 次期川越市自殺対策計画策定スケジュール ・ 資料7 川越市自殺対策計画 令和4年度事業実績 ・ 「自殺総合対策大綱」のポイント

	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市自殺対策計画冊子 ・川越地区消防局自損行為に関わる統計データ ・埼玉いのちの電話 相談統計資料
議 事 の 経 過	
	<p>1. 開会 傍聴者はなし。</p> <p>2. 議題 (1) 次期川越市自殺対策計画について 事務局より、資料 1,2,3,4,5 に基づいて説明。</p> <p>【委員の意見】</p>
議長	<p>基本方針（6）「自殺者等の名誉及び生活の平穩への配慮」は基本施策のどれに該当するのか。</p>
事務局	<p>基本施策 4「心の健康づくりと適切な医療受診への支援」内、施策（12）「自殺未遂者や残された人への支援」の事業がこれに該当すると考えている。</p>
委員	<p>この計画の実施にどの程度人員が必要になるのか。現状の体制で推進していくという理解でよいか。</p> <p>また、令和 4 年に自殺者数が急増した原因は何か。</p>
事務局	<p>基本的には前計画を継続するもので、現状で大幅な増減があるわけではない。個々の事業は庁内各課で取り組んでおり、事業に関わる正確な人員については即答できない。</p> <p>令和 4 年の自殺者数の増加について、原因を統計的にみると直接には「健康問題」、特に「うつ病」とされているものが多い。</p> <p>また、市民意識調査では、コロナ禍で「人とのつながり」が変化したと回答した市民が最も多かった。コロナ禍の外出自粛で家にとどまる時間が増えたことも一因と推察する。警察庁の統計で「家庭問題」、特に家族の人間関係の不和が原因とするものも多く、増加理由の一つとして考えられる。</p>
委員	<p>いのちの電話でも「人間関係が希薄になった」や「家庭内の争いが増えた」といった相談が多くあるので、コロナの影響があるというのは同感である。</p>

議 事 の 経 過	
委員	<p>救急件数では令和3年が1万7,043件、令和4年が2万522件。1年で3,500件の増加。令和5年は7月31日現在で令和4年と比較して784件多い。この全体件数の増加に比例し自殺者数も少し増加している。内容的には「急病」と「一般負傷」が多く、また「高齢者」が多い。自殺が特に増加したのではなく全体的に増加したという印象。</p>
議長	<p>総合医療センターの救命救急科医師からも、コロナ禍の初期は搬送件数が非常に少なく、特に怪我が少なかったが、このところ非常に増えていると聞いている。</p>
委員	<p>国の自殺総合対策大綱に小中高生の自殺が5年連続で増加しているとあるが、川越市でもその傾向はあるか。</p> <p>基本施策2のゲートキーパー養成について、今まで何人のゲートキーパーが養成されているか。</p>
事務局	<p>川越市内の小中学生の自殺者は過去10年間いない。</p> <p>また、ゲートキーパーの養成は、市が開催する研修では、平成27年度から令和4年度までに444人の方が受講されている。</p>
委員	<p>せっかく自殺対策に関心を持って研修を受講した方がいるのだから、これらの方との連携を考えないといけない。この大綱によると、「ゲートキーパーとは悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて必要な支援につなげ、見守る人のこと」とある。研修を受けて、悩んでいる人に気づくことができても、声をかけるには心理的ハードルや不安感を感じる方が多いのではないかと思う。どこにつなげたらいいか困ったらすぐに相談できるゲートキーパー専門の相談・支援窓口を作り、メールでも電話でも気軽に相談できる体制があれば、声かけがしやすくなるのではないか。市としてもゲートキーパーが実際に動いてくれば自殺対策が前進するし、市民の認知率も高まっていく。今後はゲートキーパーの人自体を支援し、連携を取っていく視点が必要だと考える。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて</p>

議 事 の 経 過	
	<p>事務局より、資料 6 に基づいて説明。</p> <p>【委員の意見】 なし</p> <p>(2) 各委員からの報告及び意見交換</p>
委員	<p>川越地区消防局自損行為に関わる統計データを基に報告。 救急件数は急増しており、伴って自損行為による搬送数も増加している。</p> <p>また、件数が増えたことで、救急車が到着するまでの平均時間が令和 3 年は 9.8 分、令和 4 年は 11.1 分と、ひっ迫した状況である。</p>
委員	<p>相談統計資料を基に報告。</p> <p>埼玉いのちの電話は 365 日 24 時間運営しており、大宮のセンターに 5 台、川越分室に 2 台の計 7 台の電話で対応している。</p> <p>相談員は在籍 388 名、実働 293 名で全員がボランティア。 相談件数は年間 22,136 件で 1 日平均約 61 件。</p> <p>1 件当たりの平均相談時間は、1991 年が 29 分だったのが 2022 年は 40 分になった。相談内容が複雑かつシビアになっていて、相談者が切電するまで対応するため。本当に大変な方が増えている。</p> <p>電話相談全体の 14.9% に自殺傾向（「死にたい」という内容が含まれている）がある。自殺傾向は 1991 年は 4.7% だったが 2022 年は 14.9% まで増加。メール相談では、自殺傾向が 43.0%。電話より圧倒的に多いのは、言葉で訴えるより文字として「死にたい」と書くのは書きやすいからだと考えている。</p> <p>女性からの相談がコロナ禍で増えている。経済的に追い詰められているという内容。</p> <p>2016 年の日本財団の調査によると、自殺未遂の数が 53 万人である。自殺者の 20 倍近くの方が自殺未遂をしている。</p>
委員	<p>一企業として社員のメンタルヘルスに取り組み、ゲートキーパー教育を社員教育として実施している。ホーム設備を含めお客様にケガや事故が無いよう取り組んでいく。</p>

議 事 の 経 過

委員

2021年から鉄道3社・保健所とともに「命の大切さを伝える」鉄道キャンペーンを実施している。夏休みの後、青少年の自殺が増える傾向があるということと、鉄道事業者として鉄道事故を減らしたいということで、市内の中高生を対象に命の大切さを表現したポスターを募集し、9月10日から30日まで駅に掲出するキャンペーンをしている。令和3年度は70枚、令和4年度は17枚の応募があった。少しでも川越市の自殺者を減らしていける取組をしていきたい。

4. 閉会